

## 2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名 はむらプレーパークの会

代表者・役職名 氏名 代表 永川みつ子

### ▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調でお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

### 1. 助成プロジェクト名

遊びでつながる！はむらプレーパーク 2021

### 2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

地域の子どもの遊びに何かが足りない…そう感じていた子育て世代の親たちが、「自分の責任で自由に遊ぶ」のプレーパーク精神を大切に、こども自身が考えて創る遊び場を提供したいと、2015年に勉強会を開始。間もなく始まった市民提案型協働事業への応募をきっかけに団体を設立しました。2016年から野外での遊び場提供、講演会の開催などを行い、現在会員約53名で活動しています。

### 3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

子どもの成長段階では、多少の危険が伴っても、遊びの中で自分の力を試し、失敗から学ぶ体験が欠かせません。時間・空間・仲間が揃えばそれが実現できるところ、いずれも足りていない現状があります。子どもが思う存分外で遊べず、結果としてゲームやスマホ漬けになっているのは、大人の責任が大きいと感じています。子どもの「やってみたい」気持ちを尊重し、安心して失敗できる遊びの場を提供することで、地域の子どもたちが経験や感情豊かに育ち、見守る大人たちのつながりも育ててくれることを願って、プロジェクトを実施しています。

### 4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

①放課後の遊びを充実させる場として、月1回の放課後プレーパークを開催。雑木林が広がる自然のアスレチックのような緑地公園で、崖すべりやかくれんぼ、ハンモックや段ボール工作等々、異年齢が入り混じり遊べる場を提供。②年4回の1日プレーパークでは、子どもが火おこし→薪集め→自分の焚き火で焼き芋を焼くなどの非日常体験もできる、丸一日外遊びの場を提供。③「夜までプレーパーク」ではカートレースや工作、日没後は肝試しをやり、夏の夜を満喫。④「そとっこひろば」では、月に2~3回市内の小さな公園で未就園児親子を対象に、保育士が子どもの面倒をみたり保護者の話を聞いたりして、親子がコロナ禍でも孤立しない場を提供。

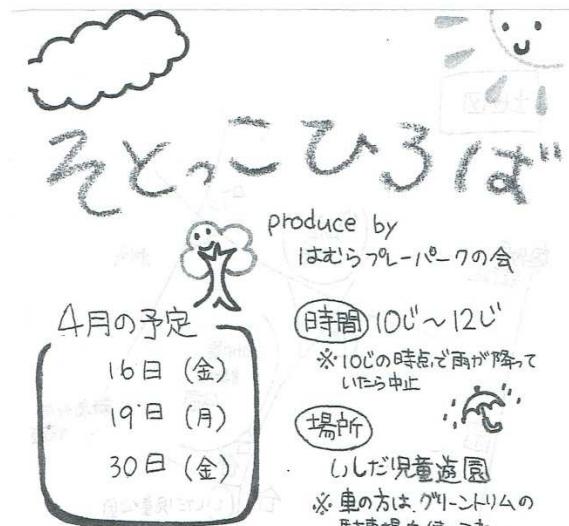
### 5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

新型コロナウィルスの緊急事態宣言下で中止を余儀なくされたり、学校チラシの配布を控えたりした回が多かったものの、全41回(①10回②2回③1回④28回)の開催で、約850人の参加がありました。3年目の放課後プレーパークでは友が友を呼び、遊びの輪が広がっています。自分達で考えて落ち葉拾い対決を開いたり、コマを借りて帰って練習してくる子がいたりと、積極的な子も増えています。未就園児親子を対象とした「そとっこひろば」は、コロナ禍こそ必要なプロジェクトとして通年休まず開催し、「元気になれる場」「つながりが生まれる場」として定着してきました。地域の方の協力も増えてきて、徐々に活動が広がりつつあります。

### 6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

6年間試行錯誤をくり返す中でようやく定着してきたプレーパーク作りですが、子どもも大人もまだ受け身の人が多いと感じています。遊び場づくりをはじめとするまちづくりは、自ら主体的に関わることで、もっと楽しく面白くしていくことができるはずで、子ども達が楽しみながらそこに挑戦できる場を今後作っていく予定です。真如苑よりいただいてきた助成金が3年間のひと区切りを迎える、使えるお金が限られる中で従来からのプレーパーク活動も継続するため、次年度は費用的にもマンパワーの確保もきびしくなりますが、この機会に地域で支援してくれる人をもっと増やせるよう、スタッフで知恵をしぼっていきます。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、必ず、別途、ご提供ください。



子どもたちに毎日の遊びはいかがせません。ごほんと同じくらい必要です。コロナでおうちにこもりがちです。こんなときだからこそ、三密にならないおでかけ遊びませんか。石ヶ場にハンモック、手作りブランコ、お絵かき etc. いスタッフ在中しますので、子育て相談もお気軽にお問い合わせ 090-1263-9461 エガワ

本事業は「多摩地域市民活動公募助成」(真如苑助成事業)を受けています

## 令和3年度 はむらプレーパークの会 活動報告

年度の前半は新型コロナウィルス感染症の緊急事態が収束せず、会場が使えないところもあり、4~5月の放課後プレーパークと1日プレーパークは残念ながら中止しました。しかし、これだけ長い期間、子どもたちにがまんを強いるのは無理があります。このような時こそ子ども同士や親子で安心して遊べる場が必要だと感じ、6月からは控えめな告知で、できるだけの感染対策をとりながら、すべてのプレーパークを再開しました。

10~12月は学校でのチラシ配布も再開し、2年ぶりに焚き火もできるようになって、密を避けつつも久しぶりに人が集まる楽しさを皆で共有することができました。1~3月の感染再拡大には、規模縮小・日程延期などで柔軟に対応し、参加者の皆さんと協力しながら開催しました。

未就園児親子向けのそとっこひろばは、このような時こそ特に必要と考え、夏休み中は近所の小学生も受け入れながら、雨天時以外は年間を通じてほぼ休まず開催しました。保育士の資格をもつスタッフが子どもの見守りや、お母さんたちの話し相手になり、親子で安心して過ごせる外遊びの場、仲間作りの場を提供することができたと思います。

### ●放課後プレーパーク (全10回)

夏場の蚊・蜂対策で、6~9月は美原団地児童遊園に場所を移し、水ふうせんや水鉄砲など夏ならではの遊びや、チャンピオンを決めるコマ対決など楽しみながら、短時間でも日頃のものやもやを発散できればいいな、という思いで開催を続けました。10月に羽加美緑地公園に戻ると、これまでできていた子たちが次々と新しい友達をさそってきて、がまんの日々をしばし忘れるようにぎやかな時間が戻ってきました！



## ●放課後プレーパーク (つづき)



羽加美緑地公園では、森みたいな地形の中を、皆が好き好きに走り回っています。



忍者みたいに颶爽と林間を走り抜ける子たち。トランシーバー片手にかくれんぼや鬼ごっこをやってます。



コマ対決は小さな賞品をめざして毎回白熱。

もめることもありますが対決後は決めポーズで。



ハンモックはいこいの場にもなります。



どんぐりや木の実で工作もやりたい放題。



ロープを置いておいたら、笑ったり困ったりしながら、あれこれ試していました。



大きいお姉さん、迫力あるな~(^^)



落ち葉の季節は遊びがどんどん生まれます。遊びの中で第一回「落ち葉拾い対決」が企画され、白熱の戦いが繰り広げられました



↓第一回チャンピオン↓



地域の方が、グライダーを持ってきて、子どもたち(大人にも)ミニ体験をさせてくれました。こんな小さな空間でも「ふわり」が味わえて思いがけない非日常体験に、子ども達は大喜び。



## ● 1日プレーパーク (全2回)

これまでの年3回から1回増やし、子どもの日の5/5にやる予定が、緊急事態宣言で中止になってしまいました。9月の回は、10月に延期してやるつもりが、残念ながら雨天で中止。満を持しての12月は見事な冬晴れとなり、たくさんの親子が参加して、焚き火やカート、ハンモックなど、皆で感染対策に気を配りながら、楽しむことができました。3月は再びの感染拡大でしたが、なんとか中止は避けたいと、定員を少なくて、小規模で開催しました。



おお、跳んでるねえ！久しぶりのプレーパーク、私たちもうれしいよ！



カートで走るもよし、のんびり寝そべるもよし。それぞれ好きなように過ごします。



坂すべりも、段ボールの形や大きさを工夫することでスピードが変わるため、滑っては改良を繰り返して、何度もチャレンジ。



大人はつい手や口を出したくなるけど、できるだけ見守り。火打石でもマッチでも、自分でできるようになることが、大きな自信になります。



何度も何度もおしりすべって、ズボン、破れました！でも楽しかったんだよね～



仲間と一緒に過ごすだけなんか幸せな時間なんだよね～♡

プレーパークの会で育てた安納芋を子どもたちが販売。  
100本ほどが早々に完売しました。

## ●夜までプレーパーク (全1回)

今回は初めて、江戸街道公園で開催しました。自転車で走れるコースがあるので、カートで走るのも楽しい♪ 暗くなってきたら、こわい話が得意なおじさんから結構こわい話を聞いて、肝だめしに出発。途中ゾンビがいたり、マネキンの首がぶら下がってたりして、思った以上に盛り上りました。次回はおばけをやるんだって、終わった途端来年の計画を立て始めた子も。羽化するセミがたくさん見られ、虫好きもそうじゃない子も思わず見入りました。



双子くんたちは夜までカートに乗っていました。



5歳の彼は夜まで虫取り



ど、どなたですか？目が光る  
ゾンビに大盛り上がり。



暗くなってからがいよいよ楽しい。



ワークショップ形式でランタンを作りました。



ある病院で本当にあったという、こわいお話を聞いて  
みんなゾワゾワと冷えてきたところで、肝だめしに出発。

## ●そとっこひろば (月2~3回、全28回)

コロナ禍で児童館などに行きにくくなり、孤立しがちな

未就園児の親子のために、雨天時以外は通年休まず開催しました。

小さな小さな公園ですが、春は梅、秋は紅葉が美しく、クリスマスにはバイオリンの生演奏を  
楽しんだりして、いい時間を過ごしてもらうことができました。



小さな小さな公園だけに、隅々まで目が届いて  
いつもアットホームな雰囲気です。



夏は小学生も参加して水遊び。  
行き場がなくて困っていた近所の子が  
何度も遊びにきてくれました。



同じくらいの月齢の  
子が集まるので  
お母さん同士の  
話もはずみます。



スタッフが子どもを見ている間に  
お母さん同士のんびりおしゃべり。  
孤立しがちな子育て中には特に、  
貴重でうれしい時間です。